

次世代の実学が体感できる最新の実践型教室へ改修

3号館・5号館 アクティブラーニング（AL）教室



次世代の実学（アクティブラーニング）の推進に対応する教室整備の1つである5号館272AL教室のディスカッションテーブル（複数人が同時に、映像・画像・プレゼン資料等を使い、作業や発表が行えるテーブル型のタッチパネルディスプレイ）

【ポイント】

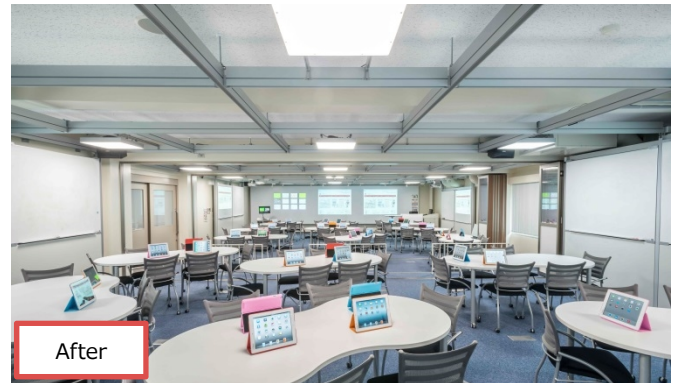
アクティブラーニングを支える実践型教室

能動的、主体的な学びを促す最新のICT機器を導入

- 学生と教員が双方向につながり、活発に意見が飛び交うアクティブな授業が行えるよう、ICT機器を整備。
- 壁面スクリーン兼ホワイトボードと 프로젝タを3壁面に配置。
- 学生のタブレット端末に講義資料を提示する操作や、タブレット端末から学生の意見を集約しスクリーンへ投影する操作を、一括して行える電子教卓を整備。

従来型の講義室から短期間で改修

- 213AL教室の改修では、天井に電源・LANケーブルが格納されたフレームを格子状に配置。フレームに取り付けたデバイスは、取り外し可能なため、壁や天井を傷つけることなく、短期間での改修や更新が可能。



3号館213AL教室

改修前の固定机が並ぶ講義室（上）（最大180席）

改修により、授業スタイルに合わせて講義、グループ学修、ディベート等、様々な運用が可能となった（下）（最大90席）

整備による効果

能動的学修/プロジェクト型学修を取り入れた正課科目が増加

- 平成 24 年度には約 20 科目だったが平成 27 年度には約 60 科目に増加。
- 特に、プロジェクト型学修の中の、地域連携インターンシップにおいて、地域の課題等について学生が解決策を出し、市民に公表する等、成果をあげている。



グループでの能動的学修を取り入れた授業の様子

日本 e-Learning 大賞受賞

- 先進的な ICT 環境を駆使したアクティブラーニング手法が評価され、第 12 回日本 e-Learning 大賞（主催：e-Learning Awards フォーラム実行委員会/フジサンケイビジネスアイ）において、「アクティブラーニング部門賞」を受賞。

教室環境への満足度

- 学生による授業評価アンケートを実施しており、整備されたアクティブラーニング（AL）教室の教室環境に対する満足度は高い。
（213AL 教室では 5 段階評価で約 4.0）

整備の背景・目的

- 社会ニーズに合った人材育成のため、「教育開発センター」において、様々なニーズ調査に基づき教育カリキュラム充実等の教育改革を進めてきた。
- ニーズ調査及び、事前の検証結果を踏まえ、アクティブラーニングのより効果的な実施及び、全学的普及を目指し、新たな実践型教室への改修整備を行うこととなった。

ニーズ調査の結果

学生のニーズ	企業のニーズ
授業理解に際し、わかりやすい提示資料・配布資料	卒業生に求める能力 「多角的な思考力」 「思考の柔軟性」 「企画立案性」 等

事前の検証

様々な授業科目においてアクティブラーニング手法を導入し、期待される教育効果を検証した結果、以下の効果が期待できることが明らかとなった。

- ・課題探求・問題解決能力向上
- ・多様な価値観を持つ他者との協調性向上
- ・自主性、主体性の向上

更なる展開

これからの講義室のスタンダードに

- これからの講義室のスタンダードとして整備を進める。
- 大講義室（200～300 名規模）においても、双方向授業が展開できるよう、ICT 機器の充実が始められている。